
歯医者は怖くない？

楽都

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歯医者は怖くない？

【Nコード】

N1929J

【作者名】

楽都

【あらすじ】

歯の異変に気付いた二日後、私は近所にある森の鹿医院（仮名）にやって来た。今日あった事を、小説風に書いてみた。ある人によってはホラーと取れるかもしれないし、ホラーじゃないかもしれません。これを読んで、歯科医院の雰囲気味わいましょう。

(前書き)

(実際にあつた事を、小説風に書いてみました。 歯医者が嫌いな人は読まない方が良いでしょう)

12月27日、事は起こる

「?? なんかに痛いなあ・・・」

2日前に買って貰った、ソタツキーのフライドポテトを口にして異変に気付く。右下の奥歯が、物凄く痛い。

不思議に思い、顔の上から擦っても何とも無い。だから気のせいかと、もう1度噛んでみたら・・・

「やっぱり痛い・・・」

フライドポテトを温めないで、固い状態のままパクついたからだろう。

鏡で口の中を覗いたら奥歯の右下の部分 随分と大昔に治療して貰った歯の一部分がひび割れていた。

カレンダーで歯医者予約日を見ると、明日だ。でも、用事があるって明後日に変更したんだ。だから2日はこの痛みに耐えなきゃならない。

「2日・・・2日間だけ我慢すればなんとかなるか」

右側で噛む事を諦めて、左側の歯で食事をする事にした。

私の二日間の夜のメニューだけ、通販で有名なルズダイエット。このダイエット食ならデザート感覚で食べれるし、美味しい。しかも噛まなくても喉に流し込むだけだ。

フーチエを彷彿とさせるプルプルの甘い食感に喜びつつ、少し

値段が高過ぎだと不満を押しこめながらも飲み込んだ。そしてようやく2日が過ぎる

12月29日

午前は軽めに家の掃除を手伝い、11時頃、歯科医院に到達した。車で家から約五分と近い距離ながら、駐車場に停車。森の鹿医院（仮の名前）の受付所に入る。

チャリンチャリンッ

「おはようございます」

「こんにちは」

11時頃ならまだ朝だと思い普通に挨拶したのに、それでも受付の美人なお姉さんは朝でも「こんにちは」だ。微妙に噛み合わない挨拶に居た堪れなくなり、素早く診察カードを差し出して待合室のソファに座る。

「ラクトさん、真ん中の椅子へどうぞ」

5分くらい経ったんだろうか、診察室のドアが開き別の女の人により奥へと通される。

部屋の中は、窓の外が眺める事が出来る位置に椅子が3つほど設置され、掛け持ちで診療が出来る様になっている。

少しの空いた時間を有効に使って、空いた2つの椅子に座る患者さんを診る為の物だろう。衝立のある隣では、実際に他の患者さんを治療していた。

美人なお姉さんに前掛けを首の後ろで止めて貰い、せんせい医師が来るまで大人しく待つ。

しばらくして医師^{せんせい}がやって来てくれた。

「ラクトさん、何か変わった所は無いですか？」

「右下の奥の歯が、痛くなりました。今は痛くないんですけど、物を噛むと痛いです」

「そう、じゃあちょっと見てみようか」

座っていた椅子がググツと上がり、丁度いい位置まで高められた後、頭の部分も下げられる。ライトが眩しいけど、目を開けていた。

「う〜ん、ちょっと悪い感じに割れてるね。デンタル取ろうか」

（ 　　こう聴こえる ）

手際よく歯に何かを当てられ、自分で固定するように指示される。この前説明された時は、レントゲンの様な物だと教えてくれた。

右上の奥歯に銀のかぶせをして貰い、一か月程続いた治療は終わりを迎えた。しかし、新たな虫歯のせいで喜びは一転する。

「ラクトさん、右下の奥歯、ひび割れてる所だけ抜いところか」

「ええええ〜」

「・・・」

少し沈黙した医師^{せんせい}。でも、やっぱりやるみたいだ。

「麻酔するからね」

「麻酔したら痛くないですか？」

「痛くないよ」

嬉しそつに高いめの声を出した医師。こつなりやついでだ。やつて貰おう！と、口を開けて待つ。

針の長い注射器を手に取り、私の歯茎目掛けて注射する。一回、反対側にまた一回。麻酔が効くまで少し待たされ、その瞬間がついにやって来た。

「ラクトさん、奥歯の歯を抜くからね」

「・・・！」

銀色に光る工具、

レンチだ。

でかいレンチを医師は手に持っている。見るんじゃ無かった！と後悔しながら口を大きく開けた。

「はい、抜きましたよ」

「（え、もう??）」

痛みが無くて、拍子抜け。ひび割れた虫歯の部分だけスルリと抜かれ、銀のトレーに移される。

とりあえず今の治療法は、空いた場所に綿を詰め込まれて来年まで持たすとの事。右側じゃなく、左側で食べ物を噛む様にと指示され、今日の診察は終了した。医師と補助の女の人たちにお礼を述べて、その場を後にする。

「今日は銀のかぶせをしてるので、四千三百円になります」

「はい・・・」

「来年は新しい月なので、保険証を持って来て下さいね」

受付の美人のお姉さんにお大事にと言われ、森の鹿医院を後にする。

歯の健康に役立つモノ、私の歯に足りないモノはカルシウムだと自己判断した。さっそく車に乗り込み、カルシウムが沢山入った四十個入りのウエハースをスーパーで二袋購入。

牛乳をあまり飲まない作者が考えた、手軽な食べ物。それは虫歯の危険を生み出すお菓子を食べる事だった。今、この小説を書いているオチの時点で気付いたのである。

> 終 <

(後書き)

ホラーじゃないかもしれません。ジャンルをその他に変えようか
考え中です。(思い浮かばない・・・)

とりあえず、来年いい事がありますように！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1929j/>

歯医者は怖くない？

2010年10月28日03時15分発行